

平成30年度7月教育委員会 会議録

開催日時	平成30年7月20日（金） 15:30～17:00	
開催場所	町民総合会館 2階 研修室	
出席者	委員	徳山順子教育長、森綾子委員、綾野克紀委員、竹井成範委員
	事務局	貝畑和明学校教育課長、黒木克美生涯学習課長、石原知子係長、大部桂嗣主事
会議次第	<p>1 開会 教育長あいさつ</p> <p>2 議事・報告案件 (1) 県（町）学力・学習状況調査の概要について (2) その他</p> <p>3 連絡 8月教育委員会について 日時：8月22日（水）13:30～15:00 場所：町民総合会館 2階 研修室 総合教育会議 日時：8月22日（水）15:30～17:00 場所：町民総合会館 2階 研修室</p>	
会議資料		
傍聴者	なし	
会議録作成者	大部 桂嗣	

会議内容

1 開会

教育長あいさつ

教育長：本日から学校園は夏休みに入りました。夏季休業中は、ALTが役場勤務となり、7月後半は「シニア英会話」を5講座行います。小4～小6の児童を対象とした「わくわくサマーホリデイ」は今日から始まり、約140名の参加があります。

7月豪雨では、早島では4日間泊り込みで避難所を開設し、役場や消防団の方には大変お世話になりました。土砂崩れや床下浸水などの被害があり、これから工事をするところもあります。バーデルーム（お風呂）を被災者用に開放し、役場やゆるびの舎では募金を集め始めました。学校のPTAからも、多くの募金を集めていただき、ありがたく思いま

す。倉敷、総社、矢掛、岡山など、多くの被害が出ており、亡くなられた方のご冥福と、被災された方の1日も早い復興を心より望んでおります。本日もよろしく申し上げます。

2 議事・報告案件

(1) 「県・町学力・学習状況調査」の結果概要について

石原係長：4月17日に国語、算数・数学、英語の県調査、18日に社会・理科・英語の町調査を実施した。小学校3～5学年、中学校1・2年生を対象に実施し、県との比較で上回っているもの、下回っているものについて説明する。

小学校については、「書くこと」「数と計算」「加法の結合法則」に課題が見られた。どのような対策をとればよいのか、学力向上検討委員会で検討していく。中学校では、「書くこと」の点がまあまあだが、「図形」に課題が見られた。数学では理解や習熟度で差が広がっている。国語で、小学校の「ローマ字」は昨年度からの課題であり、「作図」は小中共通して課題となっている。

質問紙調査をみると、小5と中1については、2時間以上学習時間を確保する割合が県平均より低いが、中2については県平均より高く、家庭学習の定着が見られる。ネットやゲームについて、1時間以上する生徒は県平均より少ないが、4時間以上する生徒が一定数いて、リミットスクリーンが守られていない。家庭でのルールづくりが大事となる。家で約束をしている家庭は県平均より多いが、その約束を守っている割合は半分程度である。地域行事への参加は、県平均より上回っており、子供たちの意識の変化がみられる。

経年推移を見ると、学年によっては、向上している学年もあるが、下がっている学年もあり、更なる授業改善が必要である。4月の調査なので、前年度までの学習結果であり、これから、改善策を徹底したい。

次に、町調査は、4・5・6の社会、小4・5の理科、中1・2・3の社会、中1・2の理科、中3の英語である。小学校は理科、社会に課題があり、小中一貫して、教科の授業連携を進めていく必要がある。全体的に全国平均より下回るところが多い。

小4では平均を下回っている設問が多く、特に理科は課題が多く学習内容の定着ができていない。社会では、社会的事象について知識や理解が低い。小5では県や市の様子の領域での読み取りができていない。6年は国土の自然などの領土についての様子の理解ができてない。4年生から徐々に苦手な分野が積み重なって進んでいるのではないか。理科については、観察実験、地球・生命の領域について十分な理解ができていない。苦手な分野を集中して復習することも大事だ。

中学校では、活用のほうでは県平均を上回っている問題もある。課題としては、小学校同様に、地球・生命の領域に課題が見られ、物質エネルギーの領域の思考・表現にも課題が見られる。それぞれ小学校での積み重ねが大事であり、各学年ごとに、積み重ねを大事にしていきたい。また、中学校では、小学校の学習を踏まえた授業を行い、既習事項を活かしたり、更に発展的な問題に取り組めるようにさせたい。教師が当たり前だと思ってい

るものの理解ができていないこともあり、児童生徒の実態をしっかりと把握したい。中3の英語は、全国と比較してややよかったが、単語や並び替えなどには課題が見られる。

教育長：こうした学力調査結果から見える、児童生徒の心の声にしっかりと耳を傾け、全先生方と授業改善を図るとともに、家庭との連携を進めていきたい。調査結果の概要を聴いてどうか。

森委員：毎年、同じ課題が残るとするのは課題だ。先生方が重点的にするべきところではないか。

教育長：問題に当たる量が少ないように思う。また、家庭学習の時間も少なく、宿題の出し方の工夫や、低学年からの家庭の学習習慣づくりに取り組む必要がある。

竹井委員：県平均より低いものが多いのは毎年のことか。昨年と同じか。

教育長：昨年もそうであった。経年変化を見ていただきたい。向上している面もあるが、課題が課題のまま残っている面もある。個々の児童生徒に焦点を当てた、取組をしていく必要がある。きめ細かな実態把握と改善策の徹底が必要だ。

森委員：先生が、課題を意識して授業していくべき。

綾野委員：調査の結果概要を評価したものを出してほしい。その上でどうするか考える。数学に良い山と悪い山での差が広がっているのはよくない。差は広がる一方だ。

教育長：質問紙調査では、学習計画を立て、自主的に学習している子が少ないにも課題だ。

森委員：やる子はやっていると思うが、主体性が低いのか。

教育長：県・全国平均より低い問題について、なぜかを考えて授業に取り組みたい。全問題は、現行の学習指導要領で求められている学力を見取るものであり、調査問題から教材研究の糸口が見つかるというもの。

綾野委員：全国的に正答率の低い問題は、教え方云々ではなく、問題の方に問題があるのではないか。調査問題のシステムを聞きたい。全員が解けて当たり前のものか。何割くらいがスタンダードなのか。

教育長：今の学習指導要領が求めている問題なので、解けてほしい問題だ。100点取る生徒も結構いる。授業で、こうしたPISA型読解力の問題や算数用語を用いて説明する問題、時数制限の中で意見をまとめるなど、児童生徒が日頃取り組んでいなければ難しいと感じるだろう。未来に生きる子どもたちには、こうした力が求められている現状であり、授業づくりを考えていく必要がある。

竹井委員：授業への関心が低いのでは。

森委員：興味がある生徒は、難しい問題でも理解している。

教育長：興味を引く授業をしないと、ただ答えが合えばよいという考えになってしまう。

森委員：小1・2の生活科から、小3から理科・社会へと進んでいくのもひとつ難しくする理由かもしれない。

綾野委員：英語は、ずば抜けてよいので、そのよいところもしっかり分析すべきだ。

教育長：英語で授業していることの結果が出ており、学んだ英語表現を活用して自分の考

えを英語で表現するコミュニケーション活動に力を入れているからだ。

3 連絡

8月教育委員会について

8月22日（水）13時30分～15時に開催予定。

総合教育会議について

同日、15時30分～17時に開催予定。